

平成19年度 ゴーヤー植栽日記

平成19年度も・・・



2007年も前の年に引き続きゴーヤーを草津市役所西玄関の駐輪場の壁面に植栽しました。

これはゴーヤーカーテンを作ることにより、地球温暖化問題をより身近な問題として認識いただくためです。ではなぜゴーヤーが地球温暖化防止にいいのでしょうか？

ゴーヤーのいいところ

- **気温を下げる**

一般的には、すだれのような日よけよりもゴーヤーカーテンのほうが涼しいといわれています。すだれなどは、そのもの自体が熱を持ちますが、ゴーヤーは葉の気孔からの水分の蒸発により、葉の表面温度の上昇が抑えられるためといわれています。

- **二酸化炭素を吸収する**

緑色植物は、光合成により二酸化炭素を吸収するといわれています。また、光合成により炭水化物を作り出す際に酸素が放出されます。

- **ゴーヤーで色々な料理**

緑のカーテンを育てた後は、夏の暑い日乗り切るために、自分で育てたビタミンCたっぷりのゴーヤー料理を食べましょう！



順調に育っています



平成19年度は庁舎のほか、市民センター11箇所、全公立保育所(6箇所)、公立幼稚園(10箇所)でも取り組みました。写真は市役所西玄関前のゴーヤーの様子です。

5月中旬に植えたゴーヤーは暖かくなるにつれて、どんどん大きくなってきました。

ゴーヤーがすくすく成長してきました。6月中旬の様子です。

ゴーヤーの成長は早いです。



1週間後の写真です。もう駐輪場の屋根まで到達しています。

6月27日現在の写真です。(プランター上にあるのはペットボトルを利用した自動水やり器です)

花が咲き始めました

よく見てみると2種類あります。



左がゴーヤーの雄花、右がゴーヤーの雌花です。雌花の根元には小さいゴーヤーの実も見えます。

人工授粉をしてみよう！

マンションの高い階など、虫が近づきにくいところで育てられている場合は、人工授粉をした方がよい場合もあります。



まずは雄花をとり、花びらを取りましょう。

雄花のおしべについている花粉を雌花のめしべにつけます。花粉がめしべにつけば、人工授粉は終わりです。

ゴーヤー日陰は涼しいなあ



暑い日、カエルが涼しいゴーヤーカーテンで一休み

ゴーヤーカーテン完成



ゴーヤーカーテンが完成しました。今年は猛暑の日が多く、日中はしおれますが、朝、夕に水をやるとシャキッと元通り元気になります。

ゴーヤーの実も取れました

小さいながらもゴーヤーの実が取れ始めました。ビタミンCたっぷりで夏バテ知らず！



ゴーヤーの実はとらずにいると黄色くなります。さらにおいておくと割れて、中から赤くて甘い皮に包まれた種が取れます。

ゴーヤー育成ワンポイントメモ

平成 18 年 19 年の 2 年間育ててみた際に分ったワンポイントです。参考にしてください。

- **ゴーヤーの花の受粉**

咲き始めの花は、ほとんど雄花で、たくさん咲きますが、自然に落ちるので、人為的に間引かなくてもいいと思われます。

また蝶や蜂などが舞う自然条件がよいところは、人工授粉は必要ありませんが、極端に昆虫が少ないなど、自然受粉が困難と思われる場合は、雄花をとって雌花に受粉したほうがよいかもしれません。

- **水やりが大変な時は・・・**

毎日水をあげるのが良いですが、旅行などでいない場合は、自動水やり器というものを作ってみましょう。2リットル用のペットボトルの側面に穴を開けて水を入れ、吸水性の良い細長い布用意して、ペットボトルの水から土へ水が通じるようにたらすだけ。毛細管現象で布を伝って自然と水がしたたり落ちます。



ゴーヤー自動水やり器です。布は古タオルや古着などを使いましょう。

市民の方もゴーヤーカーテンに挑戦されました



Tさん宅のゴーヤーカーテンです。クーラーを余り使わずに済んだようです。



Mさん宅のゴーヤーカーテンを中から写真で取った様子です。葉のすきまから入ってくる風が心地よいそうです。